
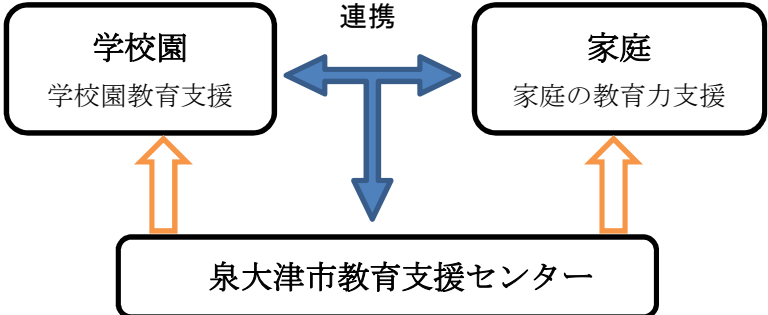


## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	家庭教育支援チーム (呼称:スマイルサポートチーム)
活動開始年度	平成17年度
活動拠点	泉大津市教育支援センター
活動範囲	泉大津市内全域 (泉大津市立小・中学校・幼稚園)
活動財源	<input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(学校・家庭・地域の連携協力推進事業) <input checked="" type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施
組織体制	<p style="text-align: center;">8 人</p> 家庭支援サポートリーダー(1人) 家庭支援サポーター(7人) <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">サポーター会議の様子</div> </div>
具体的な活動内容	<p><b>【 目的 】</b></p> <p>家庭教育の関心が低い保護者や子育てやしつけに悩みや不安を抱えながらも、相談に訪れる時間のない保護者への支援、また、親子関係の複雑化・多様化に伴う様々な問題(いじめ, 不登校, 家庭内暴力, 非行, 虐待など)に関連し、家庭および児童・生徒に対して、直接的な関わりによる相談支援を目的とする。</p> <p><b>【 活動内容 】</b></p> <p>① 不登校児童生徒の登校支援(家庭訪問型)          ② 子育て支援(子育てに悩みを持つ保護者への訪問型支援活動)</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>

	<p>* 訪問支援のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的な情報交換(ケース会議で確かなアセスメント)</li> <li>・保護者が元気になるように(エンパワメント)</li> <li>・訪問時にはお土産を忘れずに(お土産:子どもの良い情報等)</li> <li>・寄り添う気持ち(保護者の話をじっくり聴き、しんどさや本音を聞き出す)</li> </ul> <p style="text-align: center;">～ 具体的な事例 ～</p> <p>①. 家庭教育支援サポーターが家事や子育てに対する責任感や問題意識が薄い保護者に対して訪問を行い、「起床、朝食の支度、子どもの登校準備、室内の清掃、洗濯」など規則正しい生活について、直接的な指導、支援を行い、家庭生活を立て直すことにより、不登校状態であった子どもの表情が明るくなり、毎日元気に登校できるようになった。</p> <p>②. 保護者が朝早く働きに行ってしまうため、子どもが二度寝してしまい、遅刻が常習化しているようなケースでは、学校に来ていないことを担任が確認した時点で、家庭教育支援サポーターが家庭訪問し、登校をサポートするなどの自立を支援する活動を行った。</p> <p>③. 授業等で継続的に家庭訪問できない担任の代わりに家庭教育支援サポーターが家庭を訪問し、登校支援を継続した結果、子ども自身が起床や授業への準備の大切さを身につけ、ひとりで登校できるようになった。</p> <p>④. 子どもへの愛情表現や関わり方のわからない保護者に対して、家庭支援サポーターが訪問し、親子のふれあい方、接し方、具体的な遊び方等を伝えることにより、子どもと遊ぶことが煩わしく、苦痛にも感じていた保護者が、子どもと接する楽しみを発見できるようになった。</p> <p>⑤. 幼稚園・小学校・中学校と多校種にまたがり兄弟姉妹関係がある家庭に対して、学校園からの依頼に応じて家庭教育支援サポーターを家庭に派遣し、訪問支援を実施することにより、情報の共有化が図れ、スムーズな校種間の連携による支援が行えるようになった。</p>
<p>活動を通して感じていること (成果、課題など)</p>	<p>【 成果 】</p> <p>①. カウンセリングスキルを有する家庭教育支援サポーターリーダーが、課題のある家庭への訪問活動を繰り返し、家庭に寄り添いながら様々な悩みを聞き、話し相手になるといった支援を継続するなかで、「学校の先</p>

生には話しにくいが・・・」と、保護者がしんどさや本音を出せるようになった。

②. 家庭教育支援サポーターに話すことにより、保護者のストレスが軽減し、信頼関係が生まれ、現実の問題と向き合いはじめるようになった。また、家庭教育支援サポーターや学校園の教職員に保護者が認められることにより、子育てへの自信や喜びを見つけることができるようになり、保護者がエンパワメントされた。

③. 家庭支援サポーターが訪問支援を行うことにより、閉鎖された状況であった家庭の情報を、学校を始め関係機関と共有することにより、タイムリーな支援につなげることが出来た。

### 【 課題 】

① 男性の家庭教育支援サポーター及び次世代人材の育成

② 家庭教育支援サポーター・学校・関係機関の明確な役割分担のためのアセスメント。

③ 有効な支援の継続について。

・訪問による相談のなかでも、しつけは家庭の問題なので介入しないでほしいというケース、祖父母等の親類関係の家庭への介入が強く保護者との意向が違い支援の方向性の定まらないケース、保護者が働くことに精一杯で子どもへのしつけや学習機会への参加に後向きであるケース、サポーターにお任せ状態になるケースなど、様々な課題を抱える家庭の有効な継続支援について研究が必要である。